

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成25年1月17日(2013.1.17)

【公表番号】特表2012-514103(P2012-514103A)

【公表日】平成24年6月21日(2012.6.21)

【年通号数】公開・登録公報2012-024

【出願番号】特願2011-544439(P2011-544439)

【国際特許分類】

C 08 G 65/28 (2006.01)

【F I】

C 08 G 65/28

【手続補正書】

【提出日】平成24年11月19日(2012.11.19)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

(a)ジビニルアレンジオキサイド及び(b)ジフェノールの反応生成物を含んで成り、フェノール官能性を有する反応中間体を生成するヒドロキシル官能性ポリエーテル組成物。

【請求項2】

前記ジビニルアレンジオキサイドがジビニルベンゼンジオキサイドである請求項1に記載の組成物。

【請求項3】

前記ジフェノールがビスフェノールA、ビスフェノールF、テトラブロモビスフェノールA、ビフェノール、チオジフェノール、ジナフトール及びその混合物を含んで成る群から選定される請求項1に記載の組成物。

【請求項4】

熱可塑性又は熱硬化性配合物中で混合される請求項1に記載された組成物。

【請求項5】

単官能性成分を含む請求項1に記載の組成物であって、前記単官能性成分がモノエポキシド又はモノフェノールである組成物。

【請求項6】

多官能性成分を含む請求項1に記載の組成物であって、前記多官能性成分が架橋結合せずに分岐を導入する組成物。

【請求項7】

前記多官能性成分がポリエポキシド、ポリフェノール又はその混合物を含む請求項6に記載の組成物。

【請求項8】

前記ポリエポキシドがエポキシノボラックを含んで成るか、又は前記ポリフェノールがフェノールノボラックを含んで成る請求項7に記載の組成物。

【請求項9】

前記ジフェノールが化学量論過剰において使用される請求項1に記載の組成物。

【請求項10】

前記エポキシ対フェノール当量に関する比率が0.01超～1.0未満である、請求項

1に記載の組成物。

【請求項 1 1】

(a) ジビニルアレーンジオキサイド及び(b)ジフェノールを反応させることを含んで成るヒドロキシル官能性ポリエーテル組成物の製造方法。

【請求項 1 2】

前記ジビニルアレーンジオキサイドがジビニルベンゼンジオキサイドである請求項 1 1 に記載の方法。

【請求項 1 3】

前記ジフェノールがビスフェノールA、ビスフェノールF、テトラブロモビスフェノールA、ビフェノール、チオジフェノール、ジナフトール及びその混合物を含んで成る群から選定され、且つ前記ジフェノールの濃度が、フェノールに対するエポキシの化学量論比で、1.0未満で存在する請求項 1 1 に記載の方法。

【請求項 1 4】

前記方法が50 ~ 300 の範囲内の温度で実施される請求項 1 1 に記載の方法。

【請求項 1 5】

単官能性成分を含む請求項 1 1 に記載の方法であって、且つ前記単官能性成分がモノエポキシド又はモノフェノールである方法。

【請求項 1 6】

多官能性成分を含む請求項 1 1 に記載の方法であって、前記多官能性成分が架橋結合せずに分岐を導入する方法。

【請求項 1 7】

前記多官能性成分がポリエポキシド、ポリフェノール又はその混合物を含む請求項 1 6 に記載の方法。

【請求項 1 8】

前記ポリエトキシドがエポキシノボラックを含んで成るか、又は前記ポリフェノールがフェノールノボラックを含んで成る請求項 1 7 に記載の方法。